



第64号 富水地区まちづくり ふれあいだより

発行日 令和5年2月7日
発行 富水地区まちづくり委員会
広報分科会会長 村越一馬
事務担当 小田原市役所地域政策課内
住所 小田原市荻窪 300 番地
電話 0465-33-1389



本村・若宮



穴部

燃え上がる炎に込める

無病息災とコロナ収束
自治会が地域をつなぐ

「願い」

伝統行事
どんど焼き開催

一月八日十四日十五日、富水地区各所で「どんど焼き」が開催されました。自治会役員、婦人部、消防団、道祖神社中、子ども会などが関わって昔からの伝統を守り、地域コミュニティ醸成を目的に実施されています。樹木の剪定枝や廃材などで組んだやぐらに火が入ると、竹の弾ける音が響き、一気に燃え上がります。参加者は持参した正月飾りや御札、書き初めを投げ入れ、勢いよく燃える炎に向かって手を合わせ、一年の無病息災やコロナ収束を願っていました。役員、婦人部などからお菓子やお茶、御神酒が振る舞われ、団子を焼きながら、ひとときの交流に、頬を緩ませました。新屋の長老山口保範さんが、どんど焼き由来を次のように話してくれました。

十二月八日の晩になると一つ目小僧がやってきて、各家を回り子どもたちの悪い行いを帳面に記す。その子どもは、天帝に報告され疫病にかけられてしまうそうだ。一つ目小僧はいったん帳面を道祖神に預け、二月の初午に取りに来ることになっているが、その帳面を見た

道祖神は、さすがに子どもの方だ、子どもを守るために考えた。「一つ目小僧が来る前に燃やしてしまえばいいんだ」と。そこで仮の祠を作って燃やし「火事にあつて、もう帳面は燃えてしまつたさ」と。つまり、どんど焼きは災いをもたらず帳面を焼払う行事だと言う。

今年のどんど焼きは、本村・若宮(水源地)、飯中(富水小学校)、楠(山崎提灯店南側)、上清水(児童遊園地)、府川(稲子順正さんの田んぼ)、久所(道祖神横)、北ノ窪(みどりの広場)、穴部(姥神社前)、穴部新田(公民館横の公園)の全九カ所で行われました。「どんど焼きの火にあたると風邪を引かない」と言います。来年は近くの会場に是非どうぞ。



北ノ窪



久所



新屋上



飯中